圓久寺だより

第１２号　平成21年４月

花曇（はなぐもり）

桜の花が開く頃の暖かい曇り空を「花雲」といいます。また、「養花天」（ようかてん）ともいいます。花を養い、永らえさせるということです。天気も変わりやすいこの時期に、せっかく開いた桜の花を美しく咲き続けさせてくれる優しい空模様が「花雲」なのです。4 月は、新年度でもあり、「心機一転」のときですね。お花見を楽しんで、気分を新たにしましょう。

●　*私たちは「幸福」です*

昨年から世界中に起きた大不況、わが日本も連日のように暗いニュースばかりが耳に入ってきます。はたして今私たちの状況は「最悪」なのでしょうか？リストラになってしまうと仕事はないのでしょうか？ブラジルから移住してきた方が、自動車工場をリストラされ次に探した就職先は農業でした。人手不足に悩んでいた農家の方は大歓迎だったそうです。また、働き口を探していた青年が選んだ仕事先は、漁師でした。毎日船酔いしながら仕事を学んでいるそうです。

私たちは、その気にさえなれば、何にでもなれる、ということです。「俺はコンピューターの技術があるから他の仕事はできない」と自分の能力、経験、資格ばかりに囚われてしまうと人生を狭めてしまいます。こだわりの心理には、執着、欲が潜んでいます。見栄だとか世間体を恐れている呪縛から解き放れたとき、私たちは自由になれるのです。

「不景気だ」といいながらも、ＴＶではグルメだの旅行だのと豊かさを伝え、スーパーには商品があふれ、とても戦後最悪の大不況といえるのかどうかと思います。暴動、内乱も起きませんし、今のところ我が日本は平和だと思います。世界を見れば、中東ではイスラエルがパレスチナを攻撃し多くの戦死者を出しました。そのほとんどが無抵抗の市民だったそうです。また、アフリカでは食糧、医薬の不足から、年間 500 万人、毎日１万 4,000 人の幼い命が奪われているそうです。

私も皆さんも、どこか具合が悪くなれば病院で治療を受けることができます。お腹がすいたら、何かしら食べることができます。雨の漏らない家で過ごすことができます。ある日突然爆弾が落ちてくることもありません。15 歳までは義務教育制度のおかげですべての子供が学校に行くことができます。

だから　それだけで　ありあまるほど

私たちは　幸せなのです。

この日本という国に生まれ「今」があることに感謝できますか？喜んでいますか？　当たり前ではないんです。

●　*仏教のことば　「融通」*

「融通のきく人」は、ものごとに臨機応変に対応して柔軟な姿勢で対処できる人。

「融通のきかない人」は、ものごとを杓子定規にとらえて決められた通りにしか事を進められない人。

仏教でいう「融通」とは、別々のものが融けあって通じ合い、双方が完全にひとつになることです。宇宙の万物はそれぞれが、相互につながり、支え助け合って調和する存在である、ということになります。ですから、私たち人間は「融通のきく人」になった方がよいのです。自然の調和を壊しているのが人間ですから、社会、職場、家庭の中で「調和」を築けないということは自分が「融通のきかない人」であるということです。ガンコに自分を反省するどころか、いつも人のせいにして生きるのはもうやめましょう。

●仏さまの教えを実践しましょう

生きることは苦しい、と知ること

仏さまは、人間の苦しみは「人として生まれ、生きていくこと」「年を重ね老いていくこと」「病気になること」「いつか死ぬこと」この４つが根本である、と説かれました。「生・老・病・死」の四苦です。

あなたは自分の人生を振り返ってみて、楽しかったこと、つらかったこと、どちらが沢山思い出されるでしょうか。つらい思い出の方が多いかもしれません。それでも、あなたは今、ここまでがんばって生きてきました。多くの苦しみを乗り越えてきました。天から与えられた修行を勤めてきたのです。

お金持ちになれる、幸せになれるハウツー本や情報があふれ、テレビなどではお笑い番組が引っぱりだこです。多くの人は「楽しい」ということは簡単に手に入れることができると思い込んでいるようです。

努力、精進をしないで本当の喜びを得ることはできないよ、と仏さまは教えられます。つらいこと、苦しいことをしっかりと受け止め、楽しみに変えていくことが人間として成長すること。

生きているときは　しっかり生きる

死ぬときは　しっかり死ぬ

生きてるときは「生きてるぞー」「頑張るぞー」って感じながら生きる。悩みながら、迷いながらでも前をしっかり向いて生きることが「修行」なのです。過去の苦労をすべて「いい経験させてもらったなあ、ありがたいなあ」と受け止めることができたならば、そのとき、自分の人生が「楽しいな」と幸せな心持ちになれるのです。

●「恩」（おん）の字

心の上にあるのが「因る」（よる）という字です。口の中に大の字、この大は人間が立ちはだかってるという意味です。人間が大きくなっていられるのは、何か大きなものに包まれていて、そのお陰様で大きくなっていることができる、それが「恩」の字です。自分が何者かになるには、多くの人々の「支え」があったから「今」がある、ということです。感謝の思いをしっかりと心に刻み込んで生きていくのが「人間」です。

おとぎ話を教えて頂きました。

ある男の人が、海辺でぼんやり空を見上げていた。そのとき、いろんなことを思い出した。自分が歩いてきた道を眺めたとき、２つの足跡があった。男の人は「ああ、オレはいつも神様と 2 人で歩いていたんだ」と思った。ところが、自分がつらいとき、困ったときは道に残る足跡がいつも 1 つになる。男の人はこう思った。「ああ、このときは神様がいなかったんだ」

それで、いいときは、足跡がまた２つになる。そのとき、男の人は神様に向かってこう言った。

「神様、なぜ私がつらいとき、苦しいときに、私をお見捨てになったのですか」

すると天から神様の声が聞こえてきた。

「子よ、それは違う。お前が苦しみ、悲しんでいるとき、私はお前を背負って歩いていたんだ。だから、足跡が１つなんだよ」

私たちは　生きて　生かされている

だから　喜んで　今日を迎えましょう

俊栄　拝